



校長室だより

校長 菅原 定志

卒業

大変久しぶりの校長室だよりとなってしまいました。そして、今回の校長室だよりは今年度最後となります。

3月6日(日)に卒業式を行い、38名の生徒がこの学び舎を巣立っていきました。そして、昨日は、離任式が行われ、在校生や卒業生に見守られながら、8名の教職員が鹿折中学校から新天地へと飛び立っていきました。

私は、生徒会主催の離任式で、生徒会から「卒業証書」をいただきました。サプライズであり、大変うれしく、感動した時間でした。37年前に初めて教員の世界に飛び込み、これまで中学校8校そして教育委員会で、生徒や保護者の皆さんに見守られながら、なんとか今日までこの仕事を勤め上げることができました。

「なぜ教員になったのか」と尋ねられたら、「子どもたちが好きだから」と答えます。それだけ、生徒という時間が大好きでした。生徒と一緒にいる時間をつくるために、私もいろいろなことに挑戦してきました。

部活動には、誰よりも最初にグラウンドに行き、生徒と一緒に活動しました。今とは違い、土・日も部活動が行われていた時代です。私の娘の小中学校の行事にはほとんど参加せずに部活動を最優先にする最悪のおやじでした。

学校行事も生徒と一緒に活動できる時間でした。ある学校の文化祭では、市内の中学校で初めて全校制作を行いました。また、別の学校では、学年全員で虎舞と太鼓の演奏をし、私も笛を担当して、運動会や文化祭で発表しました。

校長になってからは、防災学習に力を入れてきました。震災からある程度時間が経過した時に、中学生ができる防災学習とは何かを東北大学の佐藤翔輔准教授と考えながら進めてきました。初めて行う学習に戸惑う生徒たち。でも、この学習を行っていくうちに、成長していく姿をたくさん見ることができました。そして、防災学習は校内だけでなく、校外へも広がり、震災遺構伝承館での中学生語り部ガイドやマイプロジェクトの探究活動へと広がっていきました。

新しいことの実践は、多くは応援されますが、時には批判も受けました。しかし、「子どもたちが好きだから」「子どもたちに活躍の場を与えたいから」「子どもたちの大切な命を守りたいから」と信じて行ってきました。これもひとえに、たくさんの保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそできたことであると感謝しています。

鹿折中学校で過ごした最後の2年間は、本当に楽しい毎日でした。「コロナなんかには負けないぞ」の気持ちで、何をすれば生徒が喜び、笑顔になるのかを考えて生活していました。私以上に生徒たちは、学校生活を楽しいものにしようと頑張り、笑顔で生活してくれました。私にとって最高の2年間で過ごさせていただいた、鹿折中学校の生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして地域の皆様にご感謝して、最後の校長室だよりとさせていただきます。ありがとうございました。